

選択 A 研究活動の状況

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成25年度	<p>◎ 「島嶼保健看護学」の開拓に向けて、全学を挙げて教育研究に取り組んでいる。(沖縄県立看護)</p> <p>○ 過去5年間の実績として、美術工芸学部においては、国際的美術展・海外姉妹校主催美術展への作品招待18件、国際学会発表3件、国際コンペティション入賞3件、音楽学部においては、国際会議での招待講演2件がある。(沖縄県立芸術)</p> <p>○ 沖縄産学官協同研究推進事業、国の産学・地域研究推進事業に採択された調査研究があり、その研究活動の成果の一部が特許として認定されている。(沖縄県立芸術)</p> <p>◎ 2人の教授が国の重要無形文化財保持者や県の指定無形文化財保持者として認定されており、9人の名誉教授又は客員教授が同様の認定を受けている。(沖縄県立芸術)</p>	<p>○ 島嶼保健看護学のみならず、看護学全般にわたって研究成果の質を高めていく努力が望まれる。(沖縄県立看護)</p>	<p>○ 科学研究費補助金の申請が一部の教員にとどまっており、また、受託研究等の外部資金の受入実績も少ない。(沖縄県立看護)</p>
平成26年度	<p>◎ 文部科学省「21世紀COEプログラム」に採択された「先端ビジネスシステムの研究開発教育拠点」では、国内研究教育拠点の拡張や海外の研究拠点の設置による国際的な視野での日本型ビジネスシステムの研究を推進している。(神戸)</p> <p>◎ 糖鎖異常をきたす福山型筋ジストロフィーに関する研究、細胞膜の構造・機能の解明、遺伝子解析やメタボローム解析による癌やパーキンソン病等の難治性疾患の機序の解明、ウイルス学によるインフルエンザ等の伝染性疾患の要因の解明、癌や糖尿病の新規治療薬の開発等、様々な領域で世界的に優れた成果を上げている。(神戸)</p> <p>◎ 経済学分野における海外雑誌への論文掲載実績は優れたものであり、質的にも客観的に評価された論文を含んでおり、著名な学会賞・学術賞を受賞している。(神戸)</p> <p>◎ 磁気イメージング装置に関する研究成果により、欧米、日本において特許が成立しており、同成果に関わる特許出願を通してソフトウェアパッケージの販売につながっている。(神戸)</p> <p>◎ 研究成果に関連して出願した一部の特許では、企業とのライセンス契約によって、高額のライセンス収入を大学にもたらしている。(神戸)</p>		
平成27年度	<p>◎ 教育研究上の国際化を広く推進する取組の一つとして、百済文化国際シンポジウムが、公州大学校(韓国)との間で毎年度交互に開催されている。(奈良教育)</p> <p>◎ 地域の歴史、文化等の特色を活かした研究として、震災復興支援のため、陸前高田市内の寺院等における仏像の現状を明らかにすることを目的とした調査を実施している。(奈良教育)</p>		<p>◎ 科学研究費助成事業への申請状況が活発とはいえない。(奈良教育)</p> <p>◎ 専門分野によっては代表的な論文における紀要論文の割合が高い。(奈良教育)</p> <p>◎ 代表的な論文において、単著や第一著者論文を発表している教員の割合が少ない。(奈良教育)</p>
	<p>◎ 木原生物学研究所が参加した国際コンソーシアムでは、イネの40倍もあるコムギゲノムの塩基配列の概要を明らかにし、コムギの様々な特徴を決定する遺伝子を約12万個見出し、今後、農業上有用な遺伝子の特定等への利用が期待されている。(横浜市立)</p> <p>◎ 医学研究科の教員が、転写制御の分子機構解析と転写因子に対するがん分子標的療法を目指し、平成24～28年度の文部科学省新学術領域研究計画班研究代表者として、主要な国際学術雑誌に成果を報告しており、併せてベンチャー企業との共同研究で転写因子の活性を制御する化合物の同定を進めている。(横浜市立)</p> <p>◎ 医学研究科臓器再生医学の研究グループでは、「iPS細胞を用いた代謝性臓器の創出および治療法開発」を行っており、世界に先駆けてiPS細胞から血管構造を持つ機能的なヒト臓器の原基を創り出すことに成功している。(横浜市立)</p>		<p>◎ 教員個人や研究室ごとで発表した論文、著書及び研究発表の件数等、研究活動の状況を把握する全学的な体制が十分ではない。(横浜市立)</p>
	<p>◎ 法学部・法学研究科について、20年以上にわたって日独法学シンポジウムを定期的に開催し、その成果を日独双方で刊行するなど、法律学分野における重要な国際学術交流に着実な成果と実績を挙げている。(大阪市立)</p> <p>○ 理学部・理学研究科について、多くの研究成果が国際的に評価の高い学術誌に掲載され、物理学分野でトムソン・ロイター社のデータベースにおいて分野別論文引用度指数が国内第3位に位置付けられるなど、研究の質が確保されている。(大阪市立)</p> <p>◎ 複合先端研究機構では、『Nature』等の国際的評価の高い学術誌への論文発表、科学研究費助成事業基盤研究(S)及び若手研究(A)への採択、朝日賞の受賞、新学術領域への参画、科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業「CREST」の実施等、複数の大型研究プロジェクトの実施を含む質の高い研究活動が行われている。(大阪市立)</p>		

選択 A 研究活動の状況

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成28年度	<p>◎ 21世紀科学研究機構におけるバーチャル研究所の設置による研究推進体制を整備し、分野・部局横断型、戦略的・学際的な研究プロジェクトを推進することが、新たな産学連携拠点の整備や教育カリキュラムの提供、大学院専攻の設置等、教育研究及び社会貢献活動の活性化につながっている。</p> <p>◎ 地域連携研究機構内の産学官研究連携推進センターにおける学内インセンティブ事業の実施は、教員のマッチングによる研究の異分野連携によって、継続的に高い水準で科学研究費助成事業や各種補助金、共同研究や受託研究等の外部資金獲得につながっている。</p> <p>◎ 平成23～27年度までの科学研究費助成事業の細目別の採択件数について、35細目で上位10機関以内となっている。（大阪府立）</p>	<p>◎ 研究不正を未然に防止する取組として、経理方法の見直し、研究公正推進室の設置と責任体制の明確化、研究公正性及び不正防止に関するハンドブックの作成、e-learning研修の実施、「公立大学法人大阪府立大学の学術研究に係る行動規範」の策定等、大学組織としてコンプライアンスを確保する取組がなされているが、行動規範が教職員に十分、浸透していなかったため、平成28年度に新たに行動規範のリーフレットを作成し、全教職員に配布、周知することにより、行動規範の浸透に向けての改善を図っている。（大阪府立）</p>	
	<p>◎ 特色ある研究を重点的かつ組織的に進めるための重点研究の制度を設け、学長が委員長である重点研究費配分審査委員会の審査を経て採択課題と研究費の配分を行っている。社会・経済・文化の発展に資する研究の多くは、この重点研究の成果である。（福山市立）</p>	<p>◎ 研究活動の促進・向上のための委員会等として、学長を議長とし、副学長、学部長、附属図書館長、事務局長等、計7人で構成する研究推進会議を設置し、重点研究中間発表会の開催や、科学研究費助成事業申請支援事業、研究不正防止の研修事業等を企画・実施しており、研究活動を促進・向上させることが期待される。（福山市立）</p>	<p>◎ 研究活動が活発に行われているものの、国際会議や全国規模の学会での発表件数等、教員1人当たりの研究成果が少ない。（福山市立）</p>
		<p>◎ 科学研究費助成事業等について、獲得に向けての情報提供やセミナーを例年開催するなどの取組を実施しており、申請可能な教員の9割が応募するなど、今後、科学研究費助成事業の新規採択率が向上することが期待される。</p> <p>◎ 健康増進プロジェクトにおける地域保健や地域医療の領域での研究成果は、地域の予防活動に直接貢献するとともに、予防的家庭訪問プロジェクトへと発展しており、今後、地域と大学との新しい関係を構築していくことが期待される。（大分県立看護科学）</p>	<p>◎ 研究論文数と学会発表数が少なく、必ずしも学術的な期待に十分に込んでいるとはいえない。（大分県立看護科学）</p>